

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
VHS/ DVD	DA2008-009	きらっといきる 振動を感じて駆け抜けろ！ ～聴覚障害・西田文彦さん～	奈良県に住む聴覚障害者の西田文彦さんは、世界で活躍するプロレーサーを目指している。しかし周囲からは障害者がレースをすることは危険だと言われていた。夢をあきらめきれなかった西田さんは、ある人との出会いが大きなきっかけとなり、プロレーサーの夢に向かって進み出す。西田さんの夢に向かっての挑戦を紹介する。	29	B-3
VHS/ DVD	DA2008-010	きらっといきる 波に乗り世界へ ～聴覚障害・竹本裕行さん～	竹本裕行さんは徳島聾学校に通う16歳。夢はプロのサーファーになること。ろう者の父親も、かつてはデフサーファーの日本第1位だった。聾学校の寄宿舎に入っているため練習が十分にできなかったり、卒業後の進路のことなど悩みも多い。世界を目指す竹本さんの試行錯誤の日々を追う。竹本裕行／牧ローニ／ジェフ・ランバート	29	B-3
DVD	DA2010-001	カラフル！千恵のまいにち日つき	としおか千恵ちゃんは小学生の女の子。学校であったできごとを毎日日記に書いている。友だちのこと、先生のこと、お勉強のこと。学校で友だちとけんかをして、次の日には笑顔で仲直り。 ダウン症の女の子の生活の一コマを送る。	15	A-3
DVD	DA2010-002	福祉ネットワーク 受け容(い)れる勇気をもって	奥田哲生さん(41歳)は、車いすで生活しながら自宅で塾を開いている。奥田さんは28歳でギラン・バレー症候群を発症し手足の自由を失った。突然障害者となった自分を受け入れることができず、家に引きこもりがちだったが、笑顔を取り戻すきっかけとなったのは、塾の生徒たちとの交流だった。奥田さんと生徒たちとの交流の日々を追う。	29分	A-3
DVD	DA2010-003	きらっといきる “すれ違い”からはじまったけど・・・	大学4年生の大畑明子さんは、生まれつき耳が聞こえない。大学でスポーツ行動学を勉強している明子さんは、「卒業後は、子どもたちにスポーツを教えたい」と考えている。 スポーツクラブでの実習に臨んだ大畑さんの姿を追う。	29	A-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2010-004	ハートをつなごう NHK障害福祉賞(1)	44回目を迎えたNHK障害福祉賞。今回は、455編の作文が寄せられた。番組では、その中から2名の作品を取り上げ紹介する。 1日目は、小山田弘佑さん(28歳)。小山田さんは軽度の知的障害があり、そのために長年いじめを受けていた。また十代で母親が病死するというつらい体験をしたこともあって、20歳を越えたころから自殺未遂を繰り返すようになった。 そんな彼が、作文を書くことで自分と向き合い、立ち直ってきた体験を語る。	29	A-3
DVD	DA2010-005	ハートをつなごう NHK障害福祉賞(2)	NHK障害福祉賞を紹介する2日目。三重県の岡田くめ子さんは統合失調症の娘・彩さんとの闘病についてつづった。彩さんは親のすすめで進学した大学が自分に合わず心を病んでしまった。病気をきっかけに娘の心と向き合ったくめ子さんは、「娘を最高の回復者第1号にしよう」と決意。やがて彩さんは回復し、自分が大好きだった本にかかわる仕事・図書館司書に就くまでになる。	29	A-3
DVD	DA2010-008・009	ろうを生きる難聴を生きるシリーズ・被爆を語る～聞こえない人と情報について考える～(2008年7月27日放送)	長崎の山崎榮子さんは原爆被爆者。平和祈念式典では、迫真の手話で被爆の恐ろしさ、平和の誓いを訴えた。疎開先で原爆投下の8月9日を迎えた山崎さんは、その日の夕方爆心地に入り被爆した。被爆と同時に長らく山崎さんを苦しめたのは、ろう者であるが故に情報から閉ざされ、真実を知るのが遅くなったことだ。	15	B-3
DVD	DA2010-010	ろうを生きる難聴を生きる今 要約筆記を考える～字幕付与技術シンポジウム～	聴覚障害者にとって大切な情報保障手段の1つ要約筆記。要約筆記で聴覚障害者に正確にわかりやすく伝えるには何が必要なのか。要約筆記について考えるシンポジウムの様子や最新の音声自動認識システムを紹介する。	15	B-3
DVD	DA2010-016.017	ろうを生きる難聴を生きる本全米ろう連盟代表に聞く～アラン・ホーウィツさん～ ろうを生きる難聴を生きるノートテイクは今～四国学院大学の取り組み～	元全米ろう連盟代表、アラン・ホーウィツさんが、現在のアメリカの聴覚障害者が抱える課題について語る。一番大きな課題はろう教育で、ろう児が適正な教育を受けられるよう連盟が最優先で取り組んでいるという。 大学の講義を受講する聴覚障害者に欠かせない情報保障の1つ、ノートテイク。しかし大学により、その取り組みは様々だ。 香川県にある四国学院大学での取り組みを通して、大学でのノートテイクの実情と課題を探る。	15 15	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2010-021	新春ヒューマンドラマスペシャル 筆談ホステス	銀座でナンバーワンホステスの齊藤里恵さん。彼女は耳が聞こえない。しかしその障害を乗り越えるために始めた筆談が客の心をつかみ癒している。彼女がナンバーワンホステスになるまでの道のりをドラマで再現する。	93	B-3
DVD	DA2010-024	爆笑問題のニッポンの教養 File074 私は ここに いる	全盲ろうという障害を持ちながら、日本で初めて大学教授になった福島智氏。専門は障害学で、障害学とは、そもそも障害とは何か？を考える新しい学問だ。 爆笑問題の2人と福島先生が、生きる意味や障害について語り合う。	29	B-3
DVD	DA2010-027.028	ろうを生きる難聴を生きる ・中途失聴者にとっての手話 ～今求められる学習環境～  ろうを生きる難聴を生きる 無くせ情報バリア	中途失聴の人が手話を覚えようとする、まず学習の場のないことで苦勞する。自治体などで行っている手話講習会は、ろう者とのコミュニケーションを前提に、聞こえる人を対象にしていることが多いからだ。 数少ない中途失聴者を対象とした講習会の模様を通して、その必要性を考える。  中園秀喜氏の著書「聞こえのバリア解消への提言」を通して、聴覚障害者のバリアについて考える。 特に病院や公共機関、交通機関など、情報保障の必要性の高い場においても十分な保障の行われていない現状について、その解決方法も含め、中園氏本人からお話を頂く。	15 15	B-3
DVD	DA2010-029.030	ろうを生きる難聴を生きる ・夢は七大陸最高峰制覇 ～大窪康之さん～  ろうを生きる難聴を生きる ここが知りたい！聴覚障害者と 裁判員制度	聴覚に障害を持つ大窪康之さんは、7大陸の最高峰すべての登頂を目指し、平成21年4月の時点で、キリマンジャロとビンソンマシフの登頂に成功している。大窪さんをスタジオにお招きして、登頂時の映像も交えながら今後の夢を語っていただく。  平成21年5月から始まった裁判員制度。裁判員は20歳以上の有権者からくじ引きで選ばれる。実際に聴覚障害者が専任された場合、どのように参加することになるのか、弁護士の田門浩氏に説明していただく。	15 15	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2010-031・032・033	ろうを生きる難聴を生きる ろう者が作るアクション映画  ろうを生きる難聴を生きる 手話が結んだ国際結婚  ろうを生きる難聴を生きる どう広めるか“ろうあヘルパー”	ギャローデッド大学で映画製作を専攻したエミリオさんは、日本など4か国のろう者が参加したアクション映画を製作している。手話がパワーを持つ言語であることを世界中の人に知らせたいというエミリオさんの映画製作現場を紹介する。  栃木県に住む渡邊さん夫妻は、どちらもろう者。奥さんは台湾で生まれ育ったが、2人はごく自然に手話でコミュニケーションしている。日本の手話と台湾の手話はとても似ていることが2人の距離を縮めたという。日本の手話と台湾の手話で生活する2人の日常を紹介する。  大阪聴力障害者協会が始めた、ろうあヘルパー派遣事業は、まだ全国には広まりを見せていないのが実情だ。この協会の先駆的な取り組みを紹介し、ろうあヘルパーの普及について考える。	15 15 15	B-3
DVD	DA2010-034・035	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ人工内耳① ～大人のケース～  ろうを生きる難聴を生きる 人工内耳② ～子供のケース～	高度の聴力障害の人の聞こえを補う人工内耳。15年前に保険が適用され、今までに6000人が手術を受けた。現在も毎年500人前後が手術を受けているという。人工内耳について医療現場の現状を大人のケースと子どものケースでシリーズで紹介する。  聞こえを得る治療手段として注目を集める人工内耳。術後のケアは大人と子どもでは大きく違いがあるという。人工内耳の手術を受けた子どもに行う言語を獲得するためのトレーニングなどについて紹介する。	15 15	B-3
DVD	DA2010-036・037	ろうを生きる難聴を生きる 人形劇で広がる世界 デフパペットシアターひとみ  ろうを生きる難聴を生きる たたけ！身体に響く伝統の音 小倉祇園太鼓 聾鼓会	ろう者と聴者が共に活動する劇団、デフパペットシアターひとみ。人形劇を通じて、ろう者たちの活躍の場を広げ続けたひとみの活動の軌跡を追う。  北九州・小倉の夏を彩る小倉祇園太鼓。100以上の山車が繰り出し太鼓を打ち鳴らす。聾鼓会はろう者が中心となって結成された。伝統の小倉祇園太鼓を守り続ける聾鼓会を取材する。	15 15	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2010-040	石橋勝のボランティア21 手話狂言で伝えるメッセージ ～西川慧子さんの挑戦～	日本が誇る古典芸能のひとつ「狂言」。 主として科(しぐさ)と白(せりふ)によって表現されるこの芸能に挑戦を続けているのが西川慧子さんです。 実は西川さんは聴覚に障害があります。彼女たちが演じているのは、手話で台詞を語る手話狂言なのです。「聞こえないことは個性」そう語る西川さん。 35年も前、地元で初となるボランティアサークルを立ち上げ、手話の普及に尽力。今も彼女を支える人々とともに、障害がある人たちのために幅広い活動を続けています。(テレビ大阪HPより)	25	B-3
DVD	DA2010-041	ヒューマンドキュメンタリー “私の家族”	小学生と中学生の3人の子どもを育てるある一家。家族の間に血のつながりはない。子どもに恵まれなかった夫婦は15年前、NPOを通じて生後数か月の赤ちゃんを特別養子縁組を行い、さらに2人を迎え育ててきた。子どもたちには産みの親が別にいることを隠さず伝えてきたが、最近12歳の長女が「産みの母に会いたい」と言い始めた。親子とは？家族のきずなどは何なのか？子どもが成長の節目を迎えた家族の姿を通して見つめる。	43	A-3
DVD	DA2010-042	福祉ネットワーク うちの子どもは世界一 ぼくと音楽のたのしい関係	小柳拓人さん(16歳)は自閉症で落ち着きがなく集団行動や、家族とのコミュニケーションがうまくいかなかった。5歳で音楽教室に通わせると通常、子どもが苦手とする「同じことを反復練習する」などといったことがピタリとはまりみるみる上達。音楽を通して場面に応じた行動をすることを次第に身につけていく。拓人さんの日常を紹介しながら、同世代の若者たちや自閉症や発達障害について正しく理解し、一人一人の個性を大切に生きるということを考える。	29	A-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2011-001	福祉ネットワーク シリーズ地域からの提言 (1) 地域みんなで 子どもを育てる	新潟県上越市では10年以上前から市営の保育園「ファミリーヘルプ保育園」を開設。「土日だけ預かって欲しい」、「急な仕事が入った時だけ預かって欲しい」といった、従来の行政が対応しきれなかった市民のさまざまなニーズに応えている。しかも24時間の受け入れが可能なので、緊急時など母子がいつでも駆けこめるセーフティーネットとしても機能してきた。また、住民との連携にも注力していて、子育てする母親たちが作るNPO「マミーズ・ネット」と情報交換を行い、ベビーベッドが充実した施設を作ったり、父親や企業に子育てを理解してもらうための企業研修を支援したりしている。 どうしてこのようなユニークで効果的な対策が実現できるのか、財政学者の沼尾波子さんが検証する。(NHKHPより)	29	A-3
DVD	DA2011-002	ハートをつなごう 「若者のこころの病」(1)	統合失調症、うつ病など、心の病の多くは若いころにその芽があると言われ、早期に支援することの有効性は、精神医療界の世界的なトレンドになっています。そこで、「若者のこころの病」を2回にわたって見つめます。 前回2009年12月8日放送の『ハートをつなごう NHK障害福祉賞(2)』(DA2010-005)に出演し、放送後大反響だった岡田彩さんが再出演されます。 第1回は彩さんの軌跡を振り返りながら、若者がこころの病を発症する背景に何があるのか？そしてどうサポートしていけばいいのか？当事者の悩みや思いをじっくりと語り合います。(NHKHP参照)ソニン/石田衣良	29	A-3
DVD	DA2011-003	ハートをつなごう 「若者のこころの病」(2)	統合失調症、うつ病など、心の病の多くは若いころにその芽があると言われ、早期に支援することの有効性は、精神医療界の世界的なトレンドになっています。そこで、「若者のこころの病」を2回にわたって見つめます。 第2回では、第1回に続き、岡田彩さんと中心に、孤立しがちな若者たちが“つながる”ことの大切さとその意味について語り合います。彩さんが参加する“ありのままクラブ”には同様の障害を持つ若者たちが集います。“ありのままクラブ”に通う二人の“うつ病”男性がスタジオで本音トークを繰り広げます。(NHKHP参照)ソニン/石田衣良	29	A-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2011-004	ETV特集 思い出の街が 甦(よみがえ)る ～写真家・ 井上孝治の世界～	昭和30年頃の街と人々の暮らしを撮った井上孝治さん(大正8年～平成5年)。生涯、カメラ店を経営する傍ら写真を撮り続けたアマチュアカメラマンで、18年前に74歳で亡くなるまでに3万枚の写真を残しました。井上さんは、幼いときの事故が原因で耳が不自由でした。話すことはできませんでしたが、人なつこい性格で、特に子どもたちと仲良くなり写真を撮っていたといいます。音のない世界で、時代と風景を見つめ続けていました。その写真には、めまぐるしく移り変わる時の中で、わたしたちが置き忘れてきたものが写し出されています。	59	A-3
DVD	DA2011-005	きらっといきる マンガで伝えたい ろうの世界 ～聴覚障害・松谷琢也さん～	奈良県に住む松谷琢也さんは生まれたときから耳が聞こえない。松谷さんは日々の生活の中で感じているろう者と聞こえる人との文化の違いをマンガでユーモアたっぷりに描く。松谷さんの伝えたいろう者の世界とは・・・。	29	B-3
DVD	DA2011-006	きらっといきる いつも手と手をつないで ～全盲ろう 山口隆雄さん・幸子 さん夫婦～	目が見えず耳も聞こえない全盲ろうの山口孝雄さんと妻の幸子さん。会話は互いに手と手を取り合って行う触手話という方法で行っている。手と手で絆を深め、毎日をいきいきと過ごす夫婦の姿を紹介する。	29	B-3
DVD	DA2011-008	福祉ネットワーク この人と福祉 を語ろう わたしと難聴と京都の関係 エッセイスト 麻生圭子さん	1980年代、作詞家として数々のヒット曲を生み出した麻生圭子さん。しかし難聴になり、作詞家を引退。その後エッセイストとして活躍し、今は京都に夫と暮らしている。今も難聴は進行しているが、その分見るものが以前より美しく感じられるという。難聴と向き合いながら日々を暮らす麻生さんに、その生き方を伺う。	29	B-3
DVD	DA2011-009	福祉ネットワーク シリーズ 支援が必要な子どもたちへの教育 第1回“インクルーシブ”な教育	2006年に国連で採択された障害者権利条約。この条約の批准に向けて、国内でさまざまな取り組みが始まっている。インクルーシブな教育とは、障害者が自分が住む地域で、健常者と共に教育を受けること。長野県中野市の取り組みを紹介しながら、障害を持つ子供たちへの教育について考える。	29	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2011-010	福祉ネットワーク “盲ろう者” 生きる意欲につながる支援	2009年、東京に全国初の盲ろう者支援センターが開設した。全国に2万人といわれる盲ろう者に対して触手話などのコミュニケーション訓練をはじめ、調理などの生活訓練も行い、盲ろう者の自立や社会参加を広げることがと期待されている。孤立して暮らす盲ろう者の実態を調査し、適切な支援につなげていく試みを進めるセンターの活動を紹介する。	29	B-3
DVD	DA2011-012・013	ろうを生きる難聴を生きる サーキットに夢を託して ～4時間耐久レースに挑む聞こえないライダーたち～  ろうを生きる難聴を生きる デファートに希望を託して	全国のライダーたちにとってあこがれの舞台とも言える鈴鹿サーキットで、聴覚障害者で組織されたチームが注目を集めている。 メンバーは西尾政紀さんを中心とする近畿一円に住む約10人。彼らをひきつけるのは「風を切る快感」。当初は聴覚障害者の出場は危険と参加を渋る主催者と粘り強く交渉し、ようやく挑戦が実現した。  乗富秀人さんは手話をモチーフに手を描き続ける画家。ろう学校専攻科でデザインを学んだ後フランスの美術専門学校で油絵を学んだ。帰国後は風景画家として絵を描き続け受賞歴も多い。そんな乗富さんが5年ほど前に風景画をぴたりと止め、みずから「デファート」と位置づけて「手」を描き続けるようになる。作品を通して、そこに込められたメッセージを紹介していく。	15 15	B-3
DVD	DA2011-014・015・016	ろうを生きる難聴を生きる 第2言語・日本手話 ～関西学院大学の挑戦～  ろうを生きる難聴を生きる 新宿居酒屋店主 ～ど根性10年の歩み～  ろうを生きる難聴を生きる 人工内耳・心のケア 「遊びクラブ」が目指すもの	関西学院大学人間福祉学部では去年から「日本手話」を第2外国語科目とした。全国初のこの試みがほかの大学にも波及すれば、言語としての手話の認知、ひいては社会での手話のさらなる普及にむけて追い風になると期待されている。大学の試みを紹介する。  東京新宿で10年前にろうの男性が開いた居酒屋が今も満員盛況の毎日が続く。 店主は吉岡富佐男さん。10年続いた最大の理由は、聞こえない人だけでなく聞こえる人も大勢店に通い続けたことである。接客術、料理へのこだわり、店の雰囲気作り…「10年」の秘密に迫る。  人工内耳は音の情報を電気信号に変え直接脳の聴神経を司る部分に送ることで聞こえを得る治療法である。しかし、期待された効果がなかなか出ないケースもあるなど治療結果には個人差が大きいことも浮き彫りになってきた。こうした中で重要性が指摘されているのがメンタル面のサポート、それも同じ悩みを知る人同士の自助活動が大きな力になる。人工内耳治療のメンタルサポートの重要性について考える。	15 15 15	B-3



種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2011-017-018	ろうを生きる難聴を生きる 情報保障の可能性を広げよう ～字幕付与シンポジウム2009から～  ろうを生きる難聴を生きる 今 医療手話を考える	<p>京都大学学術情報メディアセンターが主催して開催された「聴覚障害者のための字幕付与技術」シンポジウム2009。 注目を集めた技術のひとつが、携帯ゲーム機や携帯電話に字幕を提供する技術。また、会場では、学術情報メディアセンターの河原達也教授たちが開発している自動音声認識システムJuliusを使ってリアルタイムで字幕を制作する実演も行われた。このふたつの技術を中心に、字幕付与技術の最新情報を伝える。</p> <p>全日本ろうあ連盟は今月「医療の手話シリーズ・第3巻 保健指導編」を出版した。連盟ではこれまで医療関係者も交えた制作委員会を作り病気や治療法に関係した手話表現の制作に当たってきたが、これでそうした手話がほぼ完成したことになる。 医療関係者、聞こえない人は「医療手話」とどう向き合ったらよいか考える。 海藤俊行／石橋大吾／長谷川芳弘</p>	15 15	B-3
DVD	DA2011-019-020	ろうを生きる難聴を生きる 今 震災体験を語る ～永江 眞樹さん～  ろうを生きる難聴を生きる 意外に多い！？ ろう者と聴者 日本語のズレ	<p>神戸市に住む永江眞樹さんは15年前の阪神大震災を経験、その体験記をこのほど出版した。「阪神大震災・聴覚障害を持つ主婦の体験」は永江さんが一家四人で体験した震災と避難生活をつづったものである。被災時に聴覚障害者がどんな体験に直面したか、改めて検証する。</p> <p>「手話と音声言語」というコミュニケーション手段の違いから意志疎通に困難を生じる健聴者と聴覚障害者だが、微妙なニュアンスの違いからも、さまざまなトラブル、誤解が発生する。そうした用例を集めた本、「ろう者のトリセツ聴者のトリセツ～ろう者と聴者の言葉のズレ～」が出版された。数々の日本語の解釈のズレを実例に、互いをよく理解するためにどうしたら良いのか考える。</p>	15 15	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2011-021・022	ろうを生きる難聴を生きる ぼくと“おしゃべり”をしようよ イラストレーター 門秀彦さん  ろうを生きる難聴を生きる 夢は七大陸最高峰制覇 ～大窪康之さん～	門秀彦さんはイラストレーターとして活躍するコーダ(聴覚障害の両親を持つ健聴の子ども)。手話を表す手をモチーフにした作品を描き続けてきた。門さんが今力を入れるのが絵の持つ「発信力」に聞こえない子どもたちにも気づいてもらい、描く楽しさを知ってもらうこと。描くことで周囲とかかわる自信をはぐくんでもらい成長してほしいと願う。  大窪康之さんは七大陸の最高峰制覇に挑戦中のろう者。大窪さんはこれまでアフリカ最高峰キリマンジャロ(5895メートル)、オーストラリア最高峰コジアスコ(2232メートル)、南極最高峰ビンソンマシフ(4897メートル)の登頂に成功しており、今回南米最高峰のアコンカグア(6960メートル)の登頂に成功した。アコンカグアで直面した困難、そしてチョモランマへの思いを聞く。	15 15	B-3
DVD	DA2011-025・026	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえる人とのかけ橋に  ろうを生きる難聴を生きる 必要なサービスを ～障がい者制度改革推進会議～	2010年3月、新潟市で「しゅわる映画祭」が開かれた。聞こえない人も聞こえる人もともに同じ映画を楽しんでもらい、手話に関心を持ち手話を使う(しゅわる)人を増やすことを目的にした映画祭だ。映画祭を企画したのは、手話の普及をめざして活動する団体・手話レクチャー「ハンズ」。代表の小池卓さんが映画祭の運営委員長を務める。「聞こえない人と聞こえる人のかけ橋になりたい」と願う小池さんに、その思いを伺う。 小池卓／佐藤紘一  総理大臣を本部長として設置された「障がい者制度改革推進本部」の下部組織、「障がい者制度改革推進会議」が、2010年1月からスタートした。障害のある当事者や有識者が参加して、障害者基本法の改正や、あらたな総合福祉法(仮称)の制定などに向けて議論を進めている。会議の構成員の1人、全難聴常務理事の新谷友良さんに、障がい者制度改革推進会議における議論について解説していただく。新谷友良	15 15	B-3
			2009年5月、盲ろう者の自立や社会参加の支援を目的に、東京都盲ろう者支援センターが開設された。東京都の補助を受けてNPO法人東京盲ろう者友の会が運営するもので、全国初めての取り組みだ。センターでは、料理、スピーチ、ウォーキングなどを通して、家に閉じこもりがちな人たちの社会参加を促進する事業を実施している。開設1年の東京都盲ろう者支援センターの取り組みを通して、盲ろう者を		

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2011-027・028・029	ろうを生きる難聴を生きる “盲ろう者”生きる意欲につながる支援  ろうを生きる難聴を生きる 電話リレーサービス 普及のために  ろうを生きる難聴を生きる 発達障害をあわせ持つ子への支援	支援するサービスのありかたを考える。川崎実知夫／前田晃秀  電話リレーサービスは、聞こえない人と聞こえる人がリアルタイムで会話することを可能にするサービス。聞こえない人は、パソコン上で文字を打ったり、テレビ電話で手話で話す。それを見たオペレーターが、聞こえる人に電話をして内容を音声で伝える。逆に聞こえる人の音声は、オペレーターが文字や手話で伝える。電話リレーサービスの利便さを紹介しながら、普及させるための道筋を考える。小川光彦  ろう学校に通う子どもの「発達障害」が注目されはじめた。補聴器が進歩したり手話が積極的に活用されても、「ことばの学習に困難がある」「集中が続かない」「人の気持ちを推測できない」といった特性を持つ子どもたちがいることが、わかってきたのだ。 そんな中、東京学芸大学准教授の濱田豊彦さんが実施する「学習支援ダンボ」の取り組みが注目されている。発達障害をあわせ持つ子どもの教育支援の研究と実践についてレポートする。濱田豊彦	15 15 15	B-3
DVD	DA2011-030・031	ろうを生きる難聴を生きる 情報・コミュニケーションを保障する制度改革を  ろうを生きる難聴を生きる 日本ろう者集団 30年の軌跡	障害者にかかわる制度の抜本的な改革をめざして議論が続く、内閣府の障がい者制度改革推進会議。重要なテーマのひとつが「情報・コミュニケーション保障」だ。日本が批准をめざす障害者権利条約をふまえた新しい法制度を、障害者自身が提案、実現しようとしている。情報・コミュニケーション保障を実現する制度改革についての、全日本ろうあ連盟の考え方を聞く。小中栄一  ろう者演劇をけん引し続けてきた「日本ろう者劇団」は、今年、誕生して30周年を迎えた。1980年4月、演劇の好きなろう者が集まり「東京ろう演劇サークル」を設立。その後、トット基金の付帯劇団となり、日本ろう者劇団と改称し、発展してきた。日本ろう者劇団は、どのような足跡を残してきたのか、これから何を始めようとしているのか、過去の公演の映像を交えながら、劇団の米内山明宏さんと井崎哲也さんに聞く。米内山明宏／井崎哲也	15 15	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2011-041	カンブリア宮殿 障害者に働く喜びを 日本理化学工業 会長 大山泰弘	不況にあえぐ中小企業にあって、社員の幸せを考え続けている会社がある。神奈川県川崎市にある「日本理化学工業」だ。この会社の従業員は74人のうち54人が知的障害者だ。しかも重度の人が半数以上を占めている。障害者の雇用を積極的に進める企業の中でも、草分け的な会社だ。 日本理化学工業の50年の歩みと障害者雇用の現実と問題点をあぶりだしていく。 【群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ】 村上龍／小池栄子	44	B-3
DVD	DA2011-042	目撃者f 絵里せんせいとスーパーダンス キッズ	最近、子どもたちの間でもヒップホップやストリート系ダンスが大人気で、キッズダンスの全国大会開催など、キッズダンス界はこれまでにない盛り上がりを見せている。 福岡市南区にも全国で注目を集めるダンスチームがある。小学生ダンサー日本一を決める大会で前年全国3位。今回は優勝を目指すチーム「絵里ダンス」だ。子どもたちを指導するのは、西畑絵里さん。西畑さんは生まれながらにして重度の難聴という障害をもちながら、高校、大学時代に何度も日本一に輝いた実績がある。その努力は並大抵のものではない。 「ダンスの前にまず礼儀」という西畑さんの指導はとても厳しい。「できるかできないかでなく、やるかやらないかよ！」と詰ったする西畑さんに子どもたちは泣きながら必死の思いで付いていく。 さて、今大会の結果は…。【字幕制作：福岡県聴覚障害者センター】 西畑絵里	26	B-3
DVD	DA2012-001	ハートをつなごう きょうだい ～障害のある人の兄弟姉妹～ (1)抱えてきた「生きづらさ」	「子ども時代に親に甘えられなかった」「大人になっても、自分のために人生を生きられない」… 障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は、「きょうだい」あるいは「きょうだい児」と呼ばれ、成長の過程で悩みや葛藤を抱く人が多いといわれています。しかし、家族支援の必要性が指摘されるようになって、「きょうだい」は、なかなか支援の対象として捉えられてきませんでした。 「自分が悩んでいることで、親を悲しませたくない」、「周囲の人に話せば、自分が悪い人間だと思われるのではないか」…一人で苦しんでいる若者が、数多くいるのではないかとわれています。 (1)では、「きょうだい」がどんなことに苦しんできたのかを当事者のみなさんとともに考えていきます。(NHKHP参照) 石田 衣良／ソニン／桜井洋子	29	A-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2012-002	ハートをつなごう きょうだい ～障害のある人の兄弟姉妹～ (2)「自分を生きる」ために	「子ども時代に親に甘えられなかった」「大人になっても、自分のために人生を生きられない」… 障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は、「きょうだい」あるいは「きょうだい児」と呼ばれ、成長の過程で悩みや葛藤を抱く人が多いといわれています。しかし、家族支援の必要性が指摘されるようになって、「きょうだい」は、なかなか支援の対象として捉えられてきませんでした。 「自分が悩んでいることで、親を悲しませたくない」、「周囲の人に話せば、自分が悪い人間だと思われるのではないか」…一人で苦しんでいる若者が、数多くいるのではないかといわれています。 (2)では、「きょうだい」が、成長の過程で抱えるさまざまな課題を、どうやって乗り越えていけばいいのかを当事者のみなさんとともに考えていきます。(NHKHP参照) 石田 衣良／ソニン／桜井洋子	29	A-3
DVD	DA2012-003	ハートをつなごう NHK障害福祉賞(1) 私の家族	「NHK障害福祉賞」は、障害者自身の体験や、障害児・者の教育や福祉の分野での実践記録などに贈られる賞。 この「NHK障害福祉賞」最優秀賞を受賞した徳澤麻希さん。夫の勝也さんが交通事故で車いすの生活になり、麻希さんは、勝也さんの介助とふたりの子どもの子育てに奮闘。夫の勝也さんは障害を抱えながら、子育てにどう関わったらいいのか悩んできた。困難に遭いながらも前向きに生きようとする一家の姿をご紹介します。作品にこめられた思いを伺う。	29	A-3
DVD	DA2012-005	福祉ネットワーク 東日本大震災 障害者の1か月 集団避難した人たち	福島県いわき市で、さまざまな支援を受けて自立した生活を送っていた障害者74人が、東日本大震災の影響で長野県へと集団避難をした。今後どのように生活を再建していくのか、ふるさとへの強い思いの中で揺れる障害者の姿を見つめる。	29	B-3
DVD	DA2012-006	福祉ネットワーク 孤立を避け ～石巻 聴覚障害者はいま～	東日本大震災で被災したろう者の中には、情報が入らず、また支援が受けられずに孤立する方々がいる。彼らの支えとなるのが、設置手話通訳だ。宮城県石巻市で活動する設置手話通訳の姿を通して、被災した聴覚障害者の支援について考える。	29	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2012-007	福祉ネットワーク 東日本大震災 “盲ろう者”になにがおきたか	多くの人に甚大な被害をもたらした東日本大震災。中でも視覚と聴覚の両方に障害を持つ「盲ろう者」は、震災直後の停電や情報網の混乱の中、情報を得る一切の手段を失った。さらに震災は、日ごろ盲ろう者を支えていた支援者の命も奪った。東日本大震災で盲ろう者はどんな事態に直面したのか、そしてどんな支援が必要なのか考える。	29	B-3
DVD	DA2012-008・ 009・010	ろうを生きる難聴を生きる 人工内耳.270人の親の声 ～全国早期支援協議会アンケートから～  ろうを生きる難聴を生きる 検証・韓国手話 ～似ている？似ていない？ その実像に迫る～  ろうを生きる難聴を生きる 自分自身への挑戦 ～ライダー高杉奈緒子 日本最高峰のレースに挑む～	内耳に電極を入れることで、聴力の回復をはかる人工内耳。1994年に保険が適用となつてからは手術を受ける人が増え、また手術時の平均年齢は2009年には3歳代となった。多くのケースでは、手術を行うか否かの判断は親が判断している現状だ。番組では、聴覚障害児を持つ親を対象に行われたアンケートから、人工内耳に対する親の気持ちを紹介。また人工内耳を装着しながらも、手話の世界に生きがいを見いだした聴覚障害者の姿も紹介する。  日本でも学ぶ人が増えている韓国手話。北星学園大学の佐々木大介さんは、言語学の立場から両者を比較研究している。かつて日本が韓国を植民地化していた歴史的背景もあり、韓国手話と日本手話は非常に似ていると言われるが、最近ではその状態に変化が起きているという。韓国手を取り巻く現状を見ていく。  高杉奈緒子さんは難聴者。23歳の時からライダーとして走り続けている。日本最高峰のオートバイレース「全日本ロードレース選手権」にも参戦中だ。「自分自身の限界に挑戦したい」という高杉さんのレースにかける思いを追った。	15 15 15	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2012-011・012	ろうを生きる難聴を生きる ろう教授奮闘記 ～松崎丈さん～  ろうを生きる難聴を生きる 聞こえない学生への支援 ～生き生きと学ぶために～	宮城教育大学准教授の松崎丈さんはろう者。ろう学校の教員を目指す学生たちを指導している。小学校から高校まで普通校で過ごした松崎さんは大学で手話と出会い、現在は手話を使って講義を行う。手話通訳はつけず、学生たちは手話を学びながら松崎さんとコミュニケーションしている。ろう教育を担う学生に期待する思いを、松?さんに語っていただく。  現在、大学に進学している聴覚障害学生は1500人ほどおり、その数が増える中、大学での情報保障の整備が急がれている。番組では「日本聴覚障害学生高等教育シンポジウム」の様子を紹介しながら、一部の大学で行われている先駆的な試みを見ていく。お話は筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターの白澤麻弓さん。	15 15	B-3
DVD	DA2012-013・014	ろうを生きる難聴を生きる ぬくもりを伝えたい ～会津塗り職人・星清一さん～  ろうを生きる難聴を生きる “コーダ”を見つめて ～澁谷智子さん～	星清一さんはろうの会津塗り職人、父のあとをついでろう学校卒業後この世界に入って約30年となる。星さんの心の支えは「師匠」でもある父、そして作業を共にするようになった同じ聞こえない妻の存在。一家で伝統工芸を守る姿を紹介する。  コーダは聞こえない両親を持つ聞こえる子どもたちのこと。コーダは「ろう文化」と「聴文化」の価値観の違う2つの世界を知る。コーダの子育てや親子関係に注目し研究している澁谷智子さんは、コーダ理解のための活動を続けている。澁谷さんにお話を伺う。	15 15	B-3
DVD	DA2012-015・016	ろうを生きる難聴を生きる ろう者の思いを伝えたい ～映画ドキュメンタリー作家今村彩子さん～  ろうを生きる難聴を生きる つかめ！聞こえない人々のニーズ～しゅわ旅ツアー～	今村彩子さんはろうの映像ドキュメンタリー作家。「ユニバーシティライフ～ろう・難聴学生の素顔～」が文部科学省選定作品となるなどいくつかの受賞体験もした。また「伝えたい」が日本民放連盟賞CM部門で優秀賞を受賞した。この作品は静岡県内のサーフ店長(ろう者)が、店を訪れる健聴者と筆談でコミュニケーションする姿を通して「伝える方法はいろいろある。大切なのは伝えたいという気持ち」というメッセージを送るものである。今村さんの思いを伺う。  片桐幸一さんは旅行代理店で働くろう者。ほかのスタッフとともに聴覚障害者の他、さまざまな障害のある人を対象にした旅行を企画している。当事者たちはどのようなサービスを求めているのか片桐さんの体験を通して考える。	15 15	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2012-017-018	ろうを生きる難聴を生きる 島の手作りネットワーク ～隠岐に暮らす聞こえる人とろう者たち～  ろうを生きる難聴を生きる “盲ろう者”を知っていますか？	池田文隆さん、宮子さんは島根県隠岐の島に暮らす健聴者とうろうの夫婦。島に15人ほどいるろう者の大半は1人暮らしの高齢者である。島では公的な手話通訳派遣制度が事実上ほとんど機能していない。松江市に派遣を依頼すると1日1便だけのフェリーで片道3時間かけて通訳が来ることになる。日帰りは困難なため、依頼は島の手話サークル代表を務める文隆さんに舞い込む。池田さんの取り組みを紹介する。  渡井真奈さんは、夫が盲ろう者で、5年前から、小学校や幼稚園で、盲ろう者について知ってもらうための授業を企画・運営している。授業には、実際に盲ろう者を講師に招き、点字や手話についてのクイズ、子どもたちに実際に盲ろう者の手引きをしてもらう。「盲ろう者についてもっと知って欲しい」と活動する真奈さんの思いを紹介する。	15 15	B-3
DVD	DA2012-019-020-021	ろうを生きる難聴を生きる 島のろう者は今  ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報 (平成23年3月20日放送)  ろうを生きる難聴を生きる この一年を振り返って ～ハイライトシーンをもう一度！～	島根県・隠岐は4つの島からなり、約2万人の人々が暮らす。ここには手話で生活する人が10人ほどいる。離島では手話通訳の派遣が難しい場合も多い。島のろう者たちの暮らしを追った。  東日本大震災から9日目の放送。岩手・宮城・福島各被災地の様子、聴覚障害者の状況を、各地のろうあ協会・難聴者協会や手話通訳者から報告してもらう。また被災地の聴覚障害者から番組に寄せられたメールを紹介し、被災者の生の声を伝える。  1年間の放送を振り返り、さまざまな世界で活躍する4人の聴覚障害者の様子を、ハイライトシーンを交えて紹介する。登場するのは、女性ライダーの高杉奈緒子さん、大学准教授の松崎丈さん、会津塗りの職人の星清一さん、旅行会社で手話ツアーを企画する片桐幸一さんだ。	15 15 15	B-3



種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2012-022・023・024・025	ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報 (平成23年4月3日放送)  ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報 (平成23年4月10日放送)  ろうを生きる難聴を生きる あきらめない人生 前編 ～藤田孝子さん～  ろうを生きる難聴を生きる あきらめない人生 後編 ～藤田孝子さん～	東日本大震災関連情報。震災から3週間目の様子を伝える。聴覚障害者救援中央本部の取り組みについてと、岩手県ろうあ協会会長高橋幸子さんの報告。番組後半では、兵庫県立聴覚障害者情報センターの相談員・甲斐更紗さんを迎え、災害時の心理支援について伺う。  東日本大震災から1か月目の様子を伝える。全難聴対策本部の高岡正さんから、難聴者の被災状況・必要な支援について伺う。後半は精神保健福祉士の高山享太さんを迎え、被災した子どもたちをどう受け止め支援していくのかを伺う。  1964年に制作されたNHKのドキュメンタリー「歳月」は、藤田威さん・孝子さんの聞こえない夫婦が、たくましく生きる姿を描いた作品だ。ろう者への差別がまだ厳しかった時代。さまざまな苦勞に負けず前向きに生きた孝子さんの「あきらめない人生」を伺う。  藤田孝子さんにお話を伺う後編。夫の威さんは島根県のろうあ連盟の中心的存在として活躍した。夫の生前からろうあ運動にかかわった孝子さんだが、当時は女性が前面に出るのは珍しいことだった。夫の死後、島根県のろうあ連盟の会長も務めた孝子さんに、女性ならではの取り組みについて伺う。	15 15 15 15	B-3
DVD	DA2012-026・027・028・029	ろうを生きる難聴を生きる 人形劇と自分探しの旅 ～前編～  ろうを生きる難聴を生きる 人形劇と自分探しの旅 ～後編～  ろうを生きる難聴を生きる どんぐり ろう重複障害とともに ～知的障害のある仲間のために～  ろうを生きる難聴を生きる どんぐり ろう重複障害とともに ～さまざまな“生きづらさ”を支えて～	「デフ・パペットシアター・ひとみ」は、聞こえない人と聞こえる人が力を合わせて上演する人形劇団。結成30周年記念作品の公演に初挑戦する牧野英玄さんの姿を追う。  「デフ・パペットシアター・ひとみ」の牧野さんはろう学校ではなく一般校で学び、聞こえる世界と聞こえない世界のはざままで揺れ動いていた。人形劇を通して、自分探しの旅を続ける牧野さん。初めての公演を通して、「自分とは何者なのか」が少しつかめたという。  入所授産施設「ふれあいの里・どんぐり」には60人のメンバーが暮らす。その半数以上が、知的障害のある人たちだ。メンバーは共同生活をする中で、使える手話単語の数を増やしたり、買い物をする力を付けたりして、少しずつ成長している。全国的にも先進的と言われる取り組みを伝える。  設立当初の「どんぐりの家」のころとは異なり、今、「ふれあいの里・どんぐり」では、精神障害、ひきこもり、盲ろうなど、さまざまな「生きづらさ」のある人の暮らしを支えている。「ふれあいの里・どんぐり」の取り組みを伝える。	15 15 15 15	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2012-030-031・032	ろうを生きる難聴を生きる 制度改革1 必要とする人にサービスを  ろうを生きる難聴を生きる 制度改革2 どこでもいつでもコミュニケーション支援を  ろうを生きる難聴を生きる 大好きな犬と仲間と ～びわこみみの里の就労支援～	日本では、軽中度難聴の人は障害認定されず、福祉サービスなどを受けることができない。しかし、日常生活で困っていることは、たくさんある。サービスを必要とする人が、サービスを受けられるようにするための道筋を考える。  現在、手話通訳派遣事業、要約筆記派遣事業、手話通訳設置事業を実施していない市町村があり、内容も地域格差があることが指摘されている。最新の調査結果をもとに、どこでもいつでもコミュニケーション支援が受けられるようにするための道筋を考える。  滋賀県守山市にある「びわこみみの里」は、一般企業への就労が難しい聴覚障害者などが、就労訓練を受けたり働いたりする施設。中でもユニークなのは犬の美容師であるトリマーの養成。トリマーを目指す人たちを中心に、みみの里を紹介する。	15 15 15	B-3
DVD	DA2012-036-037	ろうを生きる難聴を生きる 東日本大震災 盲ろう者は  ろうを生きる難聴を生きる 東日本大震災 放射能の不安	岩手県大槌町に住む八幡美知子さん(60歳)は、息子夫婦と孫と6人で暮らしている。震災で家は無事だったが、14年前から八幡さんを支えてくれた通訳・介助者が、津波で行方不明になってしまった。大槌町には、ほかに通訳・介助者はいない。震災の中での盲ろう者の生活の現状を伝える。  ろう者は、放射能や放射能の影響を減らすための注意点について、手話を通して情報を得る機会が少ない。そこで、東日本大震災聴覚障害者救援福島県本部では、手話通訳を付けた専門家の講演会を開いた。放射能汚染と向き合うろう者と、それを支援する動きを伝える。	15 15	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2012-038・039	ろうを生きる難聴を生きる 災害時の緊急情報をどう伝えるか  ろうを生きる難聴を生きる 災害と聴覚障害者情報提供施設	東日本大震災では、聴覚障害者の防災や被災者支援において、さまざまな課題が浮き彫りになった。特に情報配信は重要な課題である。災害発生時に確実に情報が届くようにするには、どんなシステムを用意しておく必要があるのか考える。  東日本大震災で、情報提供施設は地元の聴覚障害者団体と協力し、安否確認や被災者支援活動を行った。災害時に重要な役割を担う情報提供施設のない地域では、一日も早い施設設置を望む声が高くなっている。災害時の情報提供施設の役割について伝える。	15 15	B-3
DVD	DA2012-040	東海北陸ヒューマンドキュメンタリー 聴こえない僕が父になる	ろう者の森本拓磨さんは学生時代にひとめぼれした女性と結婚した。そして同時に5歳の翔太郎君の父親になった。耳の聞こえない森本さんが言葉の壁や血のつながりを超え、翔太郎君の父親になろうとする姿を追う。	29	B-3
DVD	DA2012-041	なんくるないさあ 耳の日特番 ～今井絵里子が息子と歩んだ 6年～	かつてSPEEDのメンバーとして、国民的人気を得た歌手・今井絵理子さん。彼女の一人息子、礼夢くんは耳が聞こえない。「聞こえないことは息子の個性」と言い切る絵理子さんは、礼夢くんを連れて全国のろう学校や施設を回り、コンサートを行っている。自ら手話を学び、息子とコミュニケーションし、そして歌い続ける絵理子さんの姿を追った。	45	B-3
DVD	DA2012-042	11ドキュメント静岡 伝えたい思い ～言葉を越えたコミュニケーション～	映像作家の今村彩子さんはサーフショップを営んでいる太田辰郎さんを1年以上取材し、ドキュメンタリー映画を制作している。今村さんも太田さんも耳の聞こえないろう者である。音のない世界に生きる今村さんの「伝えたい思い」を紹介する。	48	B-3
DVD	DA2012-043	NNNDキュメント'11 3・11大震災シリーズ16 手話で伝えた被災地 ～心の壁を越えて～	今村彩子さんはろう者の映像作家。東日本大震災の直後から現地入りし、被災したろう者たちの姿を撮り続けてきた。以前は手話のできない聴者とのコミュニケーションにあまり積極的ではなかったという今村さん。しかしあるろう者との出会いで、自分の心の壁に気づく。被災したろう者の復興も、それぞれが心の壁を超えたとき、何かが見えてくるはず。それを信じて、ひたむきに作品づくりに向き合う今村さんの姿を追う。	25	B-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2012-044	JNN九州沖縄ドキュメント ムーブ 手話で生きたい	乗富秀人さんは熊本に住む画家。描くのは、デフアートと呼ばれる「音のない世界の人たちの想いを表現する」絵画だ。口話教育で厳しく育てられた乗富さんは就職してからも、聴者ばかりの社会で孤独感を強めていた。転機となったのは26歳の時に絵の勉強のために向かったパリ。ろう教育発祥の地フランスで、ろうであることに誇りを持って生きる芸術家たちと出会う。今、乗富さんはろう者の誇りを持って、「手話で生きたい」と強く思っている。	25	B-3
DVD	DA2012-045	架け橋 第1弾～東日本大震災 宮城の被災ろう者は今～ 第2弾～一ヶ月後の被災ろう者～ 第3弾～地域の絆～	甚大な被害をもたらした東日本大震災。その時、聞こえない仲間たちは、建物の倒壊した町で、避難所で、何を思いどう過ごしていたのか。ろう者である今村彩子監督が見た被災地とは、そして聞こえない仲間たちとは…。渾身のドキュメンタリー作品。	75	A-3
DVD	DA2012-046	福祉ネットワーク この人と福祉を語ろう デザインで描く生きる希望 ～建築家 伊東豊雄さん～	各界の著名人に、その人なりの福祉論を語ってもらう「この人と福祉を語ろう」。今回のゲストは、世界的な建築家の伊東豊雄さん(70歳)。東日本大震災によって暮らしや地域社会が奪われた被災者たち。伊東さんは震災直後から被災地に入り、「建築の力」でコミュニティーの復興再生を支援するために力を注いできた。多くの喪失を経験した被災者の心と生活の復興再生を、どうデザインの力で支援しようとしているのか、話を伺う。(NHKHPより)	29	A-3
DVD	DA2013-001	アスリートの魂 私はもっと速くなる 車いすマラソン 土田和歌子	パラリンピック車いすマラソン日本代表、土田和歌子選手。17歳で足の自由を失った後、幾多の苦難においても常に前を向いて走り続け、夏と冬のパラリンピック両方で金メダルを獲得。まだ手にしていないのが、車いすマラソンでの金メダルだ。レース中の事故で大けがを負った北京大会から4年、37歳の肉体は衰えを隠せないが、「最後のチャンス」と臨むロンドンに向けた激闘の日々に密着した。	44	A-3
DVD	DA2013-002	ハートネットTV NHKハート展 叱られたとき	障害がある人が作った詩に著名人が絵をつけるアートのコラボレーション「NHKハート展」。今回は入選者の中から、茨城県に住む遠藤真宏さん(19歳)の作品をとりあげる。真宏さんは知的障害と自閉症がある。小さい時は、自分の感情をコントロールできず、ほとんど人と関わることもできなかった。母親の礼子さんは、幼少から2つのことを心がけて、真宏さんに向き合ってきたという。2つのこととは…?(NHKHP参照)	29	A-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2013-048	ハートネットTV みつえとゆういち —親子で紡ぐ“認知症”漫画—	日本の認知症高齢者は300万人を超え、今多くの人たちがさまざまな困難に直面しながら家族の介護に格闘している。認知症とどう向き合えばよいのだろうか。記憶を失いながら生きるとはどういうことなのだろうか。番組では、自身も認知症の介護の経験がある作家の田口ランディさんとともに、岡野さんの漫画が問いかけるメッセージをひもときながら、認知症介護のあり方を見つめ直す。(NHKHP参照)	29	A-3
DVD	DA2016-001	ハートネットTV シリーズ 変わる障害者支援 (1) 私のことは私が決める	障害者権利条約の中で注目される理念の1つが自分のことを自分で決める社会の実現である。しかし知的障害者の多くは判断力が不十分であるとして子どものころから親や周囲に決められた人生を歩む人が多い。 誰もが自分で自分のことを決められるための支援について考える。	29	A-3
DVD	DA2016-002	ハートネットTV 変わる障害者支援(2) あなたの決断を支えたい	障害者権利条約が採択され、各国が条約の理念の実現に向け取り組んできている中、日本も自分自身で決められる社会を目指すための障害者支援を模索している。 障害者の自己決定を支援する活動例を見ながら支援のあり方を考える。	29	A-3
DVD	DA2016-035	目撃！日本列島 心をつなぐ“千本ノック”～盲目の夫婦の日々～	目の不自由な人たちの野球・グランドソフトボール。選手たちはボールの転がる音を頼りにプレーする。全盲の脇坂清さん(66歳)は、同じく全盲の妻・美津江さんとともに、週1回のノックの練習を26年間続けてきた。盲目の二人がノックに懸ける思いとは何か。	23	A-3
DVD	DA2016-036	ハートネットTV エンジンの鍵みつけた ～発達障害とのはざまで～	全国から不登校の小中学生が集まる全寮制の学校に、幼いころ発達障害の疑いが強いと診断された少年が入学してきた。彼は同じ境遇の仲間に関心を閉ざしていた。しかし、あることがきっかけで彼は仲間に関心を開いていく。 彼の成長の記録と彼を見守る先生と仲間の2年半に及ぶ記録。	29	A-3
DVD	DA2016-037	ハートネットTV 私らしい“自立” ～NHK障害福祉賞50年～	NHK障害福祉賞は、50年前に始まった障害のある人や支援者の体験を集めた記録である。この記録は半世紀にわたる日本の福祉の歴史でもある。その中の1つである、27年前に障害福祉賞に入選した脳性まひの女性が、自立とは何かを考え続けた年月を振り返る。	29	A-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2017-042	ハートネットTV 笑顔のそばに卓球があった ～ろう者卓球日本一 伊藤優希17歳～	広島県立広島南特別支援学校に通う3年生、伊藤優希君は卓球の日本代表に選ばれた。伊藤君は2015年1月に行われた「全日本・全国ろうあ者卓球選手権大会」で史上初の男子シングルス2連覇を達成している。伊藤君が卓球を始めたのは、小学校5年生の時だ。【出演者】伊藤優希	29	B-3
DVD	DA2017-043	ハートネットTV 静かであるさい居酒屋	東京の大久保にある居酒屋「ふさお」はいつもお客さんでいっぱいの人気店。店主自慢の串揚げを片手に盛り上がるお客さんたちだが、よく見ると普通の店と様子が違う。店で飛び交うのは「手話」だ。ろう者の夫婦が営むこの店では手話が「公用語」。ここには憩いを求めてやってくるろう者も、そして手話の魅力にひかれて来る聞こえる人もいる。【出演者】吉岡富佐男／吉岡かつ江	29	B-3
DVD	DA2018-001	ハートネットTV シリーズ 相模原障害者施設殺傷事件 言葉はなくとも 重度知的障害のある人たち	相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で、19人が殺害され27人が負傷した事件が起きた。容疑者は取り調べの中で「意思疎通ができない人たちを刺した」と語った。ネット上でも「知的障害者は怖い」「何を考えているか分からない」などの声が上がった。知的障害者の思いを知ろうと模索する人たちの活動を追う。	29	A-3
DVD	DA2018-002	ハートネットTV シリーズ 罪を犯した発達障害者の再出発 第1回 少年院の現場から	罪を犯した少年たちに立ち直るための教育を行う少年院。罪を犯した少年の中には発達障害や、その疑いがある人もいることが分かった。しかし発達障害は外見では判断しづらく一般の少年と同じ教育が行われてきた。そこで国は発達障害のある少年に対する指導方針を打ち出し配慮ある指導を促した。その成果と課題について考える。	29	A-3
DVD	DA2018-003	ハートネットTV シリーズ 罪を犯した発達障害者の再出発 第2回 出所、そして社会へ	障害への支援や配慮が受けられないため罪を犯してしまう人たちがいる。地域生活定着支援センターは、こうした人たちの再犯を防ぐために活動している。中でも先進的な取り組みをしている長崎県の地域生活定着支援センターの取り組みを紹介する。	29	A-3
DVD	DA2018-037	ETV特集 亜由未が教えてくれたこと	NHK青森のディレクター坂川裕野さんの妹・亜由未さんは脳性マヒと知的障害を持つ重度障害者だ。相模原市で起きた障害者殺傷事件をきっかけに、「障害者の家族は不幸ではない」ことを伝えるため、坂川さんは亜由未さんの暮らしを撮影することに。そして今まで両親に任せていた亜由未さんの介助を1か月間してみることに。両親の苦労、亜由未さんの双子の妹の思い…。重度障害者とともに暮らす家族の姿を描く。	60	A-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2018-038	ハートネットTV WEB連動企画 “チエノバ” これだけは知ってほしい！聴覚障害の悩み	聴覚障害者といっても、全く聞こえない人から補聴器で少し聞こえる人、生まれつき聞こえない人、途中で聞こえなくなった人などさまざま。しかし聴力に違いはあっても、日常生活で不便を感じることに共通点は多い。番組では視聴者から寄せられた意見を紹介しながら、聴覚障害者の抱える悩みについて、ろう者のゲストと共に考えていく。	29	A-3
DVD	DA2019-028	ETV特集 静かで、にぎやかな世界 ～手話で生きる子どもたち～	東京都品川区にある私立明晴学園は、聞こえない・聞こえにくい子どもたちが、手話で学ぶ学校。そこでは授業も休み時間の会話も子どもたちの大事な会議も、すべて手話が飛び交い実になにげやかだ。番組では、ろう者として手話とともにのびのびと生きる子どもたちの姿と、大学で「聴者の社会」に直面する卒業生の姿を追う。(明晴学園のみなさん)	59	A-3
DVD	DA2019-029	ハートネットTV シリーズ 認知症 当事者をつくる新時代 第1回 絶望から権利へ	2017年4月に京都で開かれた認知症についての世界最大の国際会議。この会議に大きな影響を与えてきたのが、認知症当事者のクリスティーンだ。彼女は当事者として、公の舞台上で自分の考えを語り、認知症への見方を変えてきたことで有名だ。そして今、日本でも当事者が声を上げ始めている。(クリスティーン・ブライデン)	29	A-3
DVD	DA2019-030	ハートネットTV シリーズ 認知症 当事者をつくる新時代 第2回 パートナーと見つけた希望	丹野智文さんは39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断された。今、認知症への見方を変えようと、各地を飛び回る丹野さんの傍らには、活動を手伝うために常に同行する人がいる。家族でもない、介護者でもない「仲間(パートナー)」。希望を探して歩む丹野さんと仲間たちの記録。(丹野智文／若生栄子／山崎英樹)	29	A-3
DVD	DA2019-031	ハートネットTV シリーズ “ゲーム障害” LIVE相談 治療と対策	オンラインゲームなどに熱中し生活に支障をきたす症状を「ゲーム障害」という。WHO(世界保健機関)は新たな病気として国際疾病分類に加える見通しだ。当事者や家族の悩み、疑問、体験談を募集し生放送で相談に応える。治療の現場を紹介しながら、対策や予防について考える。(樋口進／遠藤美季／江上敬一／中野淳)	29	A-3

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
DVD	DA2019-032	ハートネットTV シリーズ 平成がのこした“宿題”「災 害弱者」	平成の30年間では阪神・淡路大震災、東 日本大震災など数多くの災害が起きた が、避難や復興から取り残される高齢者 や障害者など「災害弱者」が顕在化した。 国は自治体に対して「災害時要援護者の 避難支援ガイドライン」を示したが縦割り 行政の中では思うように進まない。悲劇を 繰り返す社会の課題とその解決の端緒を 探る。(福永年久／東俊裕／中野淳)	29	A-3